



医療法人 杏林会

村上記念病院のご案内

Murakami Kinen Hospital Hospital Guide

✓内科 ✓腎臓内科 ✓人工透析内科 ✓循環器内科 ✓消化器内科 ✓老年内科 ✓脳神経内科
✓呼吸器内科 ✓リハビリテーション科 ✓病理診断科

私たちはあたたかな心のふれあいを通して皆さまの健康を回復し、
穏やかで充実した毎日を送っていただくための
お手伝いをいたします

地域のために 地域と共に



医療法人 杏林会

村上記念病院

代表 TEL : 0979-23-3333

〒871-0049 大分県中津市諸町1799番地 FAX 0979-24-5345
URL <https://kyorinkai.net>

外来診察日 / 月曜日～土曜日

受付時間 / 午前 8:00～11:30 午後 12:30～16:30 ※土曜日のみ初診の方は16:00まで

休診日 / 日曜・祝祭日・12月30日～1月3日



ごあいさつ



村上記念病院
理事長
菊池 仁志

村上記念病院は、中津出身の西日本鉄道初代社長村上巧児ならびに村上医家を記念して昭和32年にこの地に建てられました。

村上医家は、村上巧児の先祖である村上宗伯に始まり、前野良沢らと西日本で最初に人体解剖を行った第7代村上玄水を経て現在に至るまで、「医も亦自然に従う」という医家精神を継承し続けております。私も村上家の末裔として村上医家精神を大切に、病む人を癒す医療を心がけて行きたいと思います。



村上記念病院
院長
中山 吉福

村上記念病院は、中津市を中心とする地域医療の病院として、医療・福祉・介護を包括的に担い、地域の人々に末永く『安心』を提供する場となる事を目標としています。地域住人の中に溶け込み、プライマリケア、予防医療、長期療養、透析治療、リハビリテーション、介護事業を通して、病初期から人生の最終段階における医療まで、患者御家族様を、全人的、包括的に支えていきたいと考えています。

村上記念病院のはじまりと歴史

今から、約380年前の寛永17年(1640)に、中津諸町にて、古林見宜(京都の名医家)より開業免許を得た村上宗伯が、村上医院を開院しました。当時は、三代将軍家光の幕政下であり、豊前中津藩小笠原長次公の御典医をつとめました。その後、享保2年(1717)に奥平昌成公が、丹後宮津より中津十萬石に封ぜられた時以来、村上家は、小笠原家に引き続き、奥平家の御典医となり、以後十三代医家として続いています。



村上医院(現村上医家史料館)

七代目玄水は、文政2年(1819年)、『解剖図説』を著しました。これは、九州における初めての人体解剖として記録されています。また、中津市宮永水源池付近に薬草園を開設し、人参をはじめとする薬草の自家栽培も行いました。



村上玄水著「解剖図説」



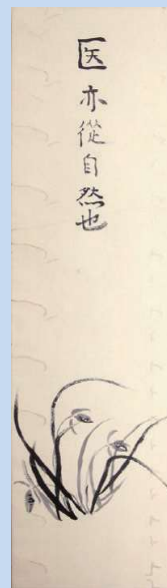
六代・村上玄秀の薬籠

医は仁術にして、その報酬もとより受くる処にあらずると云えども薬価の暴騰はいちじるしくよって応分の薬代を受くるものなり

現村上医家史料館の待合室の壁には上記のように書かれており、村上医家の家訓である「医も亦自然に従う」の精神をのぞかせています



診療報酬の定書



初代・村上宗伯の遺墨



村上良慶(村上宗伯の曾祖父)



村上医家の医局



「薬種箱」漆塗五段重

地域で安心して療養できる、切れ目

のない医療支援を。

神経難病センター

パーキンソン病などの神経難病を抱える患者さまとご家族が、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、「神経難病センター」を開設しました。患者さまやご家族の方々の意向を踏まえつつ、各部署が連携して支援します。

脳神経内科の専門医が 中心となった診療体制

神経難病の診療を専門とする医師が、病状に応じたきめ細かな治療を行います。患者さまによりそい、丁寧な問診と診察を心がけ、治療に必要な検査（CT、MRI など）が速やかに行える体制を整えています。

神経難病に 対するリハビリテーション

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が連携し、神経難病を抱える患者さまに対して、症状や進行度に応じた専門的なリハビリを提供します。また、認定セラピストによるパーキンソン病に特化したリハビリ療法も提供しています。

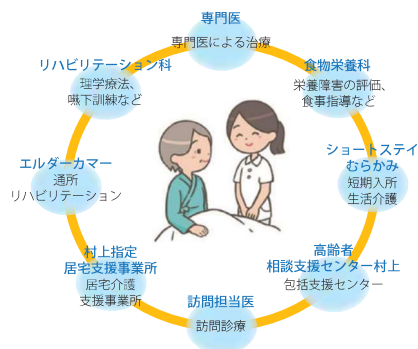
AI技術搭載のMRI検査

当院では、AI（人工知能）を搭載した1.5T MRI（磁気共鳴画像診断装置）を導入しました。これにより、MRI検査の高速化・高画質化が同時に実現され、これまで以上に高精細な検査が可能となりました。既存のレントゲン・CT装置と合わせることで、脳・脊髄・関節・血管などの画像診断をさらに詳しく行うことができますようになります。



多職種チームによる支援体制

看護部・リハビリテーション科・食物栄養科・介護施設部門が、それぞれの専門分野での経験や知識、技術を集約して連携します。患者さま一人ひとりの生活や想いに寄り添い、最も適した最新の治療・サポートを提供します。



通院が難しい方への訪問診療

お一人で通院が困難な患者さまのお宅に、医師が月に1～2回程度、定期的に診療にお伺いし、診察、検査など適宜行い健康管理を行うものです。

定期訪問に加え、緊急時には24時間×365日体制で対応し、必要に応じて臨時往診や入院の手配などを行います。

また、治療だけではなく、転倒や寝たきりの予防、肺炎や褥瘡などの予防、栄養状態の管理など、日ごろから行う健康管理を行い、入院が必要な状態を未然に防ぎます。

私たちが目指すのは「治療」と「生活支援」を両立した医療です。

専門外来

専門外来とは具体的な症状を名称に掲げる外来のことです。特定の臓器や病気、症状について、専門的な診断・治療を行います。専門的な治療が必要な病気、長くつきあっていかなければならない病気などについて、専門の医師が診察を行います。



脳神経内科

アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経変性疾患、顔面神経麻痺などの末梢神経障害、頭痛やてんかん、全身性疾患の合併症としての神経障害などの治療を行っています。
また、眼瞼痙攣および片側顔面痙攣、癲性斜頸の患者さまに対してボトックス（ボツリヌス毒素）による治療も行っています。

消化器内科

食道・胃・小腸・大腸といった消化管とそれにつながる胆のうや膵臓といった臓器の疾患を中心に治療を行っています。内視鏡検査では、ポリープなど内視鏡的治療の適応があれば、最短で1泊2日の入院治療を行っています。

腎臓内科

慢性糸球体腎炎、急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などの腎炎関連疾患の診断と治療、急性腎不全や慢性腎臓病の精査・教育、透析療法の導入、維持透析の合併症、透析アクセストラブルの対処などの診療を行っています。

呼吸器内科

急性気管支炎、肺炎などの感染症や気管支喘息、タバコ病などの慢性閉塞性肺疾患といった呼吸器疾患の診療を行っています。また、睡眠時無呼吸症候群（日中に強い眠気や、睡眠中に息苦しくて目をさます、ひどいイビキなどの症状）の患者さまに持続陽圧呼吸療法（CPAP療法）を行っています。

リハビリテーション

リハビリテーション科では外来で通院されている患者さまや入院されている患者さまに、途切れることなく継続したリハビリテーションを提供しています。
「自分らしく生きる力」が最大限発揮できるように、一人ひとりに応じた治療プログラムを実施しています。

脳血管疾患等リハビリ

脳卒中や神経の病気によって、手や足の動きの障害・記憶や注意力の障害・ことばや飲み込みの障害が生じることがあります。脳血管疾患等リハでは、立つ・歩くなどの基本動作能力、食事やトイレなどの日常生活動作、家事や就労などの応用的な日常生活活動の回復を目的としています。

呼吸器リハビリ

息苦しくなると、日中の活動量を抑える方が多く、徐々に全身の筋力が低下します。呼吸困難や活動制限を生じている、もしくは生じるリスクがある方に対し、「運動療法」・「日常生活動作」を通して、疾患の進行予防や健康状態の維持・改善の支援を目的としています。

運動器リハビリ

骨折や変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症などの病気やケガによって、運動器（運動に関わる筋肉や骨、関節、神経などの組織）の働きが障害された方に対し、低下した筋力や体の柔軟性を改善することで、歩く力や立つ力を再獲得し、健康的で豊かな日常生活に戻ることを目的としています。

パーキンソン病に特化したリハビリ

当院では、認定セラピストによるパーキンソン病に特化したリハビリ療法を行っています。パーキンソン病の方は、体の動きや会話の声が小さくなりがちのため、大きく動くことや大きな声をだすことを意識した訓練を行い、運動障害、発話障害の改善を行います。

患者さまの生活の質を高める。

人工透析センター

村上記念病院では1973年(昭和48年)10月の人工透析センター開設以来、50年以上にわたり、透析を必要とされる患者さまに安全で質の高い透析医療を提供しています。

現在89床まで拡大し、腎臓専門医・透析専門医が腎臓領域の診療を担っています。透析に至る前の保存期から、透析導入期、維持透析期まで、それぞれの段階に応じた医療を経験豊富な医療スタッフが対応し、患者さまの生活の質を高めることを目標とした医療を心がけています。

ライフスタイルにあわせた透析

9時・12時・16時からの3クルールの時間帯で透析を実施しています。仕事との両立など日中の活動に支障をきたすことなく患者さまのライフスタイルに寄り添い、通院継続が行いやすい環境づくりを大切にしています。

バスキュラーアクセスの管理と取り組み

バスキュラーアクセスの状態が悪くなり、血液が血管内を流れにくくなると効率の良い血液透析療法が出来なくなります。当院では超音波エコーで、血流・狭窄・血栓を数値化・画像化し、バスキュラーアクセスの状態を管理・把握することで異常の早期発見、早期治療に努めています。

透析支援システム

当院では透析支援システムを導入しています。体重を測ることで1日の除水量が計算され、一人ひとりの情報が個別の透析装置に送られ管理していきます。また、透析中は、常に患者さまの最新の情報がモニタリングで表示されるため、血圧などの変動を随時チェックすることが出来ます。

専門資格を持つスタッフがサポート

腎代替療法専門指導士、血液浄化関連専門臨床工学技士透析技術認定士など、高度な専門資格を持つスタッフが在籍しており、安全で質の高い透析治療を支えています。

感染症対策隔離室



充実した検査の実施

当院では、合併症等の早期発見を目指すため、透析患者さまに毎月、採血・胸部レントゲン・心電図、年に1回エコー検査(腹部・副甲状腺・頸動脈)、CT(胸部・腹部)、胃カメラ、末梢動脈疾患関連検査(ABI・SRPP)、骨密度検査(DEXA)を行っています。また患者さまの病態に応じてMRI等の必要な検査を行い、異常が認められた場合は専門医の治療が受けられる高次機能病院を紹介しています。

様々なステージの慢性腎臓病に対する 治療と支援。

「慢性腎臓病」、日本人の8人に一人が患ういわば国民病の一つ、と言われて久しくなりました。はたしてそれは事実でしょうか？腎臓は糸球体といわれる特殊なフィルターのような血管から原尿をろ過し、その濾液の中から生体に必要な水分や電解質を回収、さらに余分な物質を廃棄する機能を持つ尿管と尿管を取り巻く血管という一連の構造、すなわち「ネフロン」という組織で成り立ち、その数は腎臓一つで100万個といわれています。残念ながらヒトは生まれた瞬間からその数は減少に転じていきます。なぜなら「ネフロン」に再生能力がないからです。プロ野球選手、とりわけ投手の肩や肘は消耗品といわれ、現役を長く続けるには若いころからの球数制限やメンテナンスが重要であるとされますが、ネフロンもまさに生まれた瞬間から消耗品であり、授かったネフロンを使い切ることなく生涯を全うすることが重要で、そういう意味ではヒトは生まれながらにして「慢性腎臓病予備軍」といえるのかもしれません。

慢性腎臓病にも様々な原因やステージがあり、糸球体腎炎や膠原病の一種、そして血管炎などは将来的に一気に腎機能を悪化せしめるおそろしい疾病であり、私共腎臓専門医はそのような兆候を見逃さず診断を確定し、疾病の進行抑制や治療を行わねばなりません。当院では診断手段として安全に腎生検など行い、疾病の正確な診断、治療適応の見極めに努めています。また慢性腎臓病ではステージや病態に応じた治療や生活習慣の是正、食事療法が必要で、医師のみならず看護師・薬剤師・栄養士などの多職種が協力して全力を挙げ、腎機能低下の抑制、さらには心腎連関と呼ばれる病態への歯止めにも取り組んでいます。長寿を誇る日本人には、腎臓をより消耗させないことが重要です。しかし生まれながらにして授かったネフロンの数に個人差があるのも事実で、同じものを食べ同じ生活で同じように体を動かしても腎臓機能に差が生じてくることは避けられません。ご本人やご家族の努力や現代医療の力をもってしても、末期腎不全となり腎代替療法（透析治療や腎移植）が必要となることがやむを得ない方もいらっしゃいます。当院ではそのような患者様に、安心して安全な透析治療を受けていただけるように長年努めてまいりました。透析を行っても透析を受けていらっしゃる人達と同じように年齢を重ねていけるよう透析スタッフ全員で取り組み、患者様やご家族に少しでも長く笑顔をお届けできることを最大のよこびとし、全力を尽くしています。

「腎臓病」という難題にたいして、私共腎臓専門医の果たすべき役割の大きさと、できることの小ささに日々苦悶しながら、当院専門スタッフ、そしてとなくとも患者様やご家族と力をあわせ、人生100年、健康100年を目指しています。

副院長 腎臓内科 松前 知治

